



徳嶺勝信

先月、ベトナムのハノイで米朝首脳会議が開催され、世界中から注目を浴びました。新聞記事などでは南北戦争を例に出し、北朝鮮と同じような経緯をたどったベトナムが、社会主義国家として目覚ましい経済成長を遂げていることを大々的に報じていました。

振り返ればベトナム戦争が終結して今年で43年目を迎えます。日本の若い世代にはなじみが薄いと思いますが、私も含めた40代以上は映画も含め、ベトナム戦争に関する事柄を目にした人は多いと思います。

初めてベトナムを訪れた年配者の方はベトナム戦争の映画のイメージ(田園地帯の農村や、さかさなどを頭にかぶった女性)を想像されることが多く、空港に着いてバイクや車が行き交い、ビルが林立する光景にまず驚かれます。それほど近年は目まぐるしく成長を続けているのです。

特にインフラ関係に関してはこの2、3年で大きく変化しています。専門家からもこの数年でベト

## 経済発展 外資進出進む

ベトナム

ナムは先進国の仲間入りを果たすといわれています。それくらい内需、外需の拡大に伴う経済発展と国の安定が見込めます。これに伴い、日本企業も含めた多くの外資企業が続々と進出しているのが今のベトナムの状況なのです。

2月20日に沖縄県の委託駐在員によるセミナーが那覇市で開催されました。東南アジアとオーストラリアの委託駐在員による現地からの生の情報を発信する機会で、筆者もベトナムの委託駐在員として参加しました。この日は多くの企業関係者らが集まり、立ち見が出るほどのにぎわいで、インバウンド需要を含めた海外展開への関心の高さがうかがえました。

ただ、参加者のお話を聞いてみると、具体的な中身はこれから話めていくという状況だと感じられました。しかし、すでに県外企業や海外企業は動きだしています。ベトナムがこれから高度成長を続けていくとはいえ、指をくわえていたら、あつという間に乗り遅れてしまいます。

いま一度、インバウンド事業や海外展開を考えるなら、もっと貪欲に現地の生の情報を収集し、可能性があれば即座に実行するべきでしょう。まずは行動。これが一番大切なことだと思います。

(VINACOMPASS代表)

次回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。